

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2 年 3 月 13 日

事業所名 児童発達支援事業所ハピネス

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7名		仕切りを設けることでスペースの確保はできている。	今後も指定基準を遵守し、子ども達の安全に配慮していく。
	2	職員の配置数は適切である	7名		配置基準を満たして、適切な運営ができています。	今後、利用者の増加が考えられるため職員を増やす。また、資格所有者を採用することによって質の高い支援を目指す。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7名		段差は少なく、バリアフリー化できている個性に合わせて構造化している。	常に変化を加えて、新しい環境を提供できるようにしていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7名		危険な状況にならないように、常に清潔を保っている。	引き続き日々の清掃・片付け等を実施し、来所時に子ども達がスムーズに環境に入れるようにしていく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7名		日々のスタッフミーティングでPDCAサイクルを取り入れ、実践している。	日々のスタッフ間の連携と事業所ミーティング、支援会議等を継続して実施していく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7名		保護者の貴重な意見を頂き、保護者様の安心につなげていきたい。	指摘された事項はしっかりと受け止め、スタッフミーティング・法人会議等で改善をしていく。また、関係機関等との連携を行い、より良い事業所作りに励んでいく
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7名		保護者様からの結果をもとに作成、改善しHPに公開している。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7名		協力会社による定期的な評価がある。	今後は協力会社のみでなく、外部企業への評価依頼を取り入れたい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7名		定期的に社内研修や出張研修に派遣している。	もっと幅広い分野の研修に参加していきたい。また、外部開催の研修等に管理者だけでなく、スタッフが参加できるように職員間で協力しながら対応していく。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5名	2名	同法人にいる書類管理スタッフが定期的に研修やスタッフの意向等を踏まえて書類を見直し、児童・保護者のニーズを反映した書類になるよう努めています。	管理者を中心として、スタッフ全員で計画作成会議を行うことで多くの視点での意見が出るので幅広い支援が提供できている。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7名			基本的なアセスメントシートを基本として、独自のシートを作成して活用している。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7名		管理者だけでなく、スタッフ間でしっかりと協議ができていることで、多くの視点を盛り込んだ計画が作成できている。	今後も保護者、児童のニーズを優先しつつ、関係機関と協力しながら質の高い支援を取り入れていく。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7名		日々の支援記録にも支援計画の内容を取り入れている。	支援記録に盛り込むことで、常に支援計画に沿った支援ができ、児童の課題等が明確にできている。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	7名		事業所だけでなく、協力会社のバックアップを受けながら他者が行っていないようなプログラムを組むように心がけている。	協力会社と共に計画を練り、マリンスポーツやホエールウォッチング等が無償で提供できているので、今後も続けていきたい。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7名		MTGとは別で良いアイデア等が見つかった際に会議を持っている。	今後はもっと回数を増やしていくことで、より良いプログラムが出てくるかと思う。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7名		個別活動と集団活動を組み合わせて、長所と課題を明確にしている。	日によって体調や情緒に波があるので、送迎時の様子等もスタッフで共有し、個室での個人の活動や、課外活動など集団の活動に分けている。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6名	1名	パートやシフトで休みのスタッフにはMTGノートを活用して共有している。	引き続き、定期的なミーティングを継続していく。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7名		送迎時の事も含め、1日の振り返りを行っている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7名		日々の記録と改善、検証はしっかりとできている。	支援記録に盛り込むことで、常に支援計画に沿った支援ができ、児童の課題等が明確にできている。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7名		モニタリング実行月を表にまとめ事務室に掲示し、月初めに職員共有している	モニタリング終了後は、管理者のみでなくスタッフ全員に共有できている。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7名		管理者・サビ管だけでなく、同一法人の相談員に必要に応じて協力要請し一緒に参加して助言いただく等している。	今後も管理者・児発管だけの管理者だけでなく法人一体となってよ利用会議になるよう努めていく。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6名	1名		必要がある際には、最優先に捉えてしっかりと連携していく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		7名	現在、医療的ケアが必要な児童がいません。	今後、医療的ケアが必要な児童が入ることを考え、その際にはしっかりと対応していきたい。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		7名		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7名		必要がある際には、情報の提供と共有を行えている。	「何も問題ない」からではなく、定期的交流を持って、情報共有できるようにしていく。また、引き継ぎ書類等を作成し、情報提供できるように心がけていく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7名		送迎時などに情報の交換を行っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5名	2名	定期的な研修を受けている。	回数が少ないので、もっと頻度を増やしていきたい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	5名	2名	近くの児童館へ行き、交流している。	回数が少ないので、もっと頻度を増やしていきたい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4名	3名	協議会の参加はないが、町が実施する研修等へは参加し、また日々の取り組みを会議等を通してご理解いただいている。	自治会への加入等から始め、もっと深く関わっていきたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7名		連絡帳を使い、日々の状態を報告して連携を図っている。	少しでも気になる点があれば、送迎後に保護者へ連絡して報告し、改めて今後の支援について相談している。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	6名	1名	保護者向け勉強会を実施している。	保護者の意見を踏まえつつ、必要に応じて定期的な開催を検討していく。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7名		しっかりと説明して同意を得ている。	契約の際に説明して同意を得ている。また、契約後も要望があれば再度説明している。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7名		事業所にガイドラインを常備し、MTGの際に定期的に確認している。	基本的な運営を忘れないよう、定期的な読み込みをスタッフ全体で行い、意識して作成できるような心がけていく。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7名		保護者を含めたイベントを開催している。(BBQや勉強会等)	法人相談員を活用し、「相談できます」を告知し、保護者が相談しやすい環境を整備していく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6名	1名	保護者を含めたイベントを開催している。(BBQや勉強会等)	参加しない(できない)保護者がいるので、今後は時間の調整等して参加しやすい環境を整える。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7名		連絡帳やメール、LINE等相談できる窓口を幅広く持ち、相談があった際には対応できている。	業務時間外の相談が多いので、相談の範囲などを明確にする必要がある。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7名		毎月、たよりを発行している。	LINEやメールももっと活用して、より細かな情報を発信していく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7名		情報が外部に漏れないよう、常にスタッフに周知している。	事務所に児童が出入りすることが多いので、ファイルなどは出さなければいけないよう心掛けていく。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7名		連絡帳やメール、LINEを活用してわかりやすく説明している。	今後も空間整備の強化を常に心がけ、安心して来所いただけるように努めていく。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3名	4名	保護者のニーズを考えると、難しい部分もある。	行事計画を立てる中で該当する行事を実施する際は招待できるように普段から地域交流を実施していく。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7名		各種マニュアルを研修時に確認すると共に年に2回消防署の協力のもと避難訓練を実施している。	保護者の皆様と共有がいつでもできるわけではない為、避難訓練実施時は避難方法・経路図・連絡方法等を書面・ブログ等を通してお知らせしていく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7名		定期的に避難訓練を実施している。また、避難場所等を子ども達と確認し、日々の遊びの中でも確認するようにしている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7名		事前の個別支援会議で確認し、対応方法等を個別のファイルを作成し、職員周知をしている。また、マニュアルを作成して共有している。	フェイスシートより深い情報を取り入れるために新たにシートを配布して情報収集したい。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7名		事前に保護者から情報をもらい、おやつ提供時にはしっかりと配慮している。	アレルギーのみでなく、病院受診後は診断書等の情報をもらい、児童の健康管理に努めている。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7名		事例が起きた際は職員間で再度、注意喚起と防止法について話し合っている。	環境等を整備し、事前に防具・確認する事を心がけていく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7名		外部講師等を活用しながら、年1回実施している。	今後も定期的に開催し、適切な対応・手法を学んでいく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7名		契約書・重要事項説明書に記載し、また本人の特性を事前に個別支援会議で確認し、両親の対応等を確認している。	引き続き、利用開始時に個別支援会議を実施し、本児の特性を理解する事を心がけていく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。